

家計調査の収入階級別収支

竹光 大士

家計調査は、サンプリングした全国9,000世帯の家計の収入・支出等を調査したものであり、詳細な収支の状況を把握することができるというメリットがある。今回は消費税増税前後の収入、消費支出の状況を収入階級別の状況を中心にみてみたい。

全体の動き

まず、14年来の2人以上勤労者世帯の収入・消費支出の全体像を前年比で見してみる。実収入の動きをみると、4~9月はマイナスとなっているが、10~11月に入り回復しつつある(図表1)。一方、消費支出をしてみると、同じく4~9月は落ち込んでいるが、10~11月に入り回復傾向にある(図表2)。

財別で支出をしてみると、全ての財で駆け込み需要が1~3月に表れている。一方、4月以降を見ると、サービスと非耐久財の支出の落ち込みはさほど見られず、消費税増税の影響は小さいものの、耐久財、半耐久財への支出については、現在に至るまで戻りが鈍い(図表3)。これは、消費税駆け込み需要の反動減に加え、実収入減少による影響があるからだと思われる。

収入階級別の動き

次に収入階級別の動きを見てみたい。現在の収入階級別5分位の境界値は年間収入の低い順に収入階級ⅠとⅡで332万円、ⅢとⅣで448万円、ⅤとⅥで595万円、ⅦとⅧで810万円である。

階級別でも、7~9月についても収

入の減少が目立つ。とで10~11月に実収入の減少が続いているが、その他の階級では回復しつつある。

一方、消費支出をしてみると、4~9月にほぼ全階級で消費支出が減少ないし低迷している。7~9月においても消費支出が低迷しているが、この期間の実収入減の影響が出ている可能性がある。

但し、Ⅰ、Ⅱのように収入の回復が支出の回復につながったとみられる階級もある一方で、Ⅲのように支出の増加に収入の増加の裏付けのない階級もあり、結果は一様ではない。

家計調査の実収入については毎月勤労統計の現金給与総額に比べ、14年半ばから下方バイアスがあることが知られており、かつ勤労者世帯については、サンプル数が少ないこともデータのブレを大きくしている可能性がある。

実収入 (平均)	1月~3月	4月~6月	7~9月	10~11月
全体	0.0%	-2.0%	-2.1%	0.0%
収入階級Ⅰ	0.3%	-4.5%	-5.7%	-3.7%
収入階級Ⅱ	2.7%	-1.3%	2.9%	2.5%
収入階級Ⅲ	5.0%	1.8%	-1.5%	-1.1%
収入階級Ⅳ	-3.0%	-3.8%	-4.3%	0.3%
収入階級Ⅴ	-2.0%	-2.7%	-1.8%	0.5%

消費支出 (平均)	1月~3月	4月~6月	7~9月	10~11月
全体	3.2%	-2.8%	-1.8%	0.9%
収入階級Ⅰ	-0.7%	-11.3%	-5.4%	-5.4%
収入階級Ⅱ	0.3%	-4.0%	0.4%	2.5%
収入階級Ⅲ	1.5%	-0.4%	0.4%	11.0%
収入階級Ⅳ	7.7%	-1.3%	-3.3%	6.0%
収入階級Ⅴ	4.5%	-0.3%	-1.4%	-7.3%

名目 (平均)	1月~3月	4月~6月	7~9月	10~11月
耐久財	37.7%	-7.9%	3.0%	-11.2%
半耐久財	13.7%	-3.1%	-1.1%	-3.8%
非耐久財	4.6%	0.1%	0.2%	1.9%
サービス	1.2%	0.1%	-3.1%	1.8%

(資料)以上、全て総務省